

50年の創意工夫への挑戦が生む「人」と「メッキ」が世界を幸せにする

挑戦を恐れない組織風土 生み出される革新的技術

福井県福井市の住宅街の中に、日本の名だたる電気機械メーカー・自動車メーカーの技術者が訪れる会社がある。創業50年、電子部品へのメッキ加工ではトップクラスのシェアを誇る清川メッキ工業株式会社である。同社が一躍有名になったのは1973年、オートバイや自動車のリム(車輪の外縁)に使用する光沢処理を、アルミ素材を使って施したことがきっかけだった。

それまで、光沢処理といえば鉄を使用するのが一般的だったが、同社はアルミ素材の実用化に向けて研究と実験を重ね、「光沢アルマイト処理技術(アルミ合金の電解研磨で、美しさと腐食への強さを兼ね備える表面処理技術)」を開発。注文主のリムメーカーが大手オートバイメーカーの8割を顧客としていたこともあり、同社は一気に注目を浴びることとなった。その後も、たとえばナノ単位の超微細なメッキ技

術を開発し、アイロンや携帯電話から、より高いレベルの安全性が求められる自動車部品まで、年間1,000億個を加工している。しかも、不良をほぼゼロにできる量産技術で絶大な信頼を獲得している。

「自由なる創意の結果が、大いなる未来を拓く」。これが同社の理念であり、革新的な技術開発の原動力となっている。顧客からどんな難題が提示されても、それを解決し、安心して使ってもらおうことが同社のポリシーである。

自分たちの思いを伝えていこうと、創業者で代表取締役会長である清川忠氏の思いが綴られた『忠ちゃん奮闘記』や、同社の理念や取り組みを紹介する書籍『ISOを活かす経営』を顧客にも配布している。ISO取得のマニュアルはこの書籍を使って同業他社に開示しながら取得指導も行っており、10年間で110社のISO取得に貢献しているという。同社の経営理念に「未来を拓く」という言葉が入っているが、これは自社だけでなく、業界全体の未来をも指しているのだ。

人材育成の秘訣は理念浸透と 学習を起点とした改善

「自由なる創意」を50年間も失わずにいられる秘訣は、社員一人一人の意識の高さにある。工場や研究所など全部署の壁には、大きく「I(アイ)ビジョン・キャンパス活動」の計画が貼り出されている。計画といっても、前年対比や利益率などの数値ではなく、理念や考え方、在りたい姿などの定性的なものだ。これは会社、部門、チーム、個人の方針と計画を示したもので、「I」には私の「I」、イノベーションの「I」、アイデアの「I」の3つの意味が込められている。また、「働くことが学びの場であり、成長するために働く」という経営者の強い思いから、キャンパス活動と名付けられた。すなわち、座学や研修制度よりも実践の中での学びを重んじ、主体性を持って仕事に取り組む先に成長があるという考え方だ。

同社では、製造業における最高のおもてなしとは「お客さまに安心してお使いいただくこと」、「どんな難題でも



「できないということが大嫌い」という創業者の思いを引き継いで、日々研究を続けている。



メッキ作業者の68%が「めっき技能士」をはじめとした資格を取得している。



「めっき教室」は、子供に実際にメッキを体験させ、モノづくりの面白さや厳しさを伝えようと開催している。子供たちの輝く目が社員の誇りに磨きをかける。

取り組み、解決すること」と考えている。そのために、メッキ業界で初めて開発専門の組織を設立し、「化学研究所」「先端技術開発センター」「ナノテクノロジー開発センター」の3分野の研究に着手。工法設計、設備設計、管理ソフト設計、素材開発、管理手法開発まですべてを自前で行ない、顧客の要望を先読みして提供するべく全力を尽くしている。こうした取り組みを通じ、大きさが0.4mm×0.2mmという非常に小さな最先端精密部品へのメッキ加工において、わずか4年間で生産量1万2000倍、生産工数65分の1、1個当たり生産コスト98.5%削減という驚異的な成果を生み出した。

社員の主体性を前提にした独自の管理サイクル「SAPD」も成果の背景にある。これは、PDCAサイクルを参考にしたもので、新しい知識や情報を学び(Study)、すぐに試す(Action)。その結果として成功もしくは失敗を経験

した後、計画を立て(Plan)、実行する(Do)。小さな失敗のうちに軌道修正を行ない、成功の確度を高めることができるサイクルだ。

家族のために始めた取り組みが 仕事の誇りと地域貢献を生む

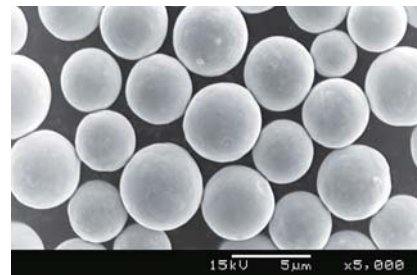
「今日やったこと全部が驚き。楽しかったです」「完成したときはとってもうれしかったです」。同社には小学生からの喜びの手紙が数多く寄せられる。同社が行なう「出張めっき教室」に参加した感想文だ。この教室は、メッキを体験し、その原理や、メッキ加工で作られたものが自分たちの生活にどのように役立っているのかを学び、働くことそのものへの関心を高めようというものである。社員の家族向けに行なっていたものが口コミでPTAに広まり、現在では遠く青森からも出張依頼が来る。要請があれば、小学校だけではな

く大学にも出向き、これまで100回以上の教室を開催してきた。同社はこの活動を、中小企業が地域と共に世界で生き抜くために必要な「信頼・安心・人材・人脈」を培うための「社会投資活動」と定義し、働くことや学ぶことの尊さを伝え続けている。企業価値をも高めるこの教室は、同社の未来を切り拓くチャンスにつながるると同時に、将来を担う子供たちの活力を生み出す場でもある。

子供と一緒に参加した社員は、「子供が親の仕事に興味を持つようになり、親子で仕事の話をする機会が増えた」と言う。また、講師役に抜擢された社員も、子供たちの反応を見ることで自分の仕事に誇りを持つことができる。これが、さらなるイノベーションへの意欲に変わるのだという。このように顧客や地域社会のための活動は、社員にとってかけがいのないやりがいをもたらしている。



「Iビジョンキャンパス」。左から全社・部門・チーム・個人の方針(Iビジョン)と、具体的計画が記載されている。



100万分の1ミリ単位の粉末に対し、10億分の1ミリ単位のメッキ皮膜を付けることのできる高度な技術を開発。



先端技術開発センター外観。技術開発まで社内で請け負うことで、顧客と自社のノウハウ流出防止にもつながる。

会社概要

- ・法人名：清川メッキ工業株式会社
- ・代表者：清川 肇 代表取締役社長
- ・所在地：福井県福井市和田中1-414
- ・設立年月：1968年11月
- ・資本金：40,000,000円

- ・ホームページ：<http://www.kiyokawa.co.jp/>
- ・社員数：正規211名、パート・アルバイトなど4名
- ・事業内容：表面処理(各種電気メッキ、無電解メッキ、機能性メッキ、化成皮膜処理、アルミニウムの陽極酸化(アルマイト))、主要メッキ品(電子部品、マグネット、半導体ウエハー、その他先端材料)、環境にやさしいメッキ(シアンレスメッキ、鉛レスメッキ、クロムレスメッキ)